

登校時のマナー見直して



335号
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2020

みんなでつくる
錦城高校新聞

登下校時のルールの変更を受け、生徒指導部の先生、小平警察署などに取材しました

生徒指導部「危機管理の意識を」

小平警察署による指導を受け、地域の方々と錦城生の安全のために新たなルールが通学マナーに加わった。ルール決定に携わった生徒指導部、小平警察署に取材した。

登校のルールに制限

登校のルールに二つ、新たなものが加わった。一つ目は自転車通学に関するもので、8時15分以降、校門側の歩道では自転車を押し歩くというルール。このルールが決まった理由について、



並んで走ったら危険です (写真はイメージ)

決めたという。このルールに関して、生徒からは「もともと余裕をもって早く来なければ」と思っていた。「事故に対する意識が変わった」というような意見が挙がった。二つ目は、登下校での読み歩き禁止というルール。小平警察から学校側に指導が入り、決まったという。郷野先生は、警察からの指導

て、生徒指導部主任の郷野先生は、近隣の方々の苦情が相次いだことを一番に挙げていた。また「錦城生にも嫌な思いをしてほしくないため、遅刻が減り、急いで来る生徒の事故の危険性も減るといいますね」というように、お互いの安全を考えてこのルールを決めたという。最後に、郷野先生は「禁止は好きではないので、これを当たり前にしてほしい。今の錦城生には相手のことを考えて行動するという意識が足りていないのでお互いの安全のために錦城生が地域の方々に認められるような行動を心掛けて欲しい」と錦城生にメッセージを送った。

小平警察署に取材

期末考査期間中、錦城高校に対して、小平警察署から登下校時の小平ロードの読み歩きについて指導を受

医学部受験に向けた心構え



8月25日(火)、視聴覚室Aにて医系専門予備校メディカルラボの講師で、毎年多くの高校で講演会を開いている可児良友先生による医学部志望者講演会が行われた。約30人の生徒が今回の医学部合格に向けた講演会に参加した。医学部に合格することはとても難しいとされている。それは

「出題傾向に合わせた対策が大切です」と可児先生
医学部の合格倍率が国立大学で約4.1倍、私立大学は約10倍と毎年とても高いためた。さらに年々医学部合格者のボーダー偏差値が上昇しており、最低でも全国の同学年の中で上位2%の人しかとることが出来ない偏差値70がなければいけないそう。可児先生は「医学部の入試問題は癖のあるものが多くあります。そのため、模試でB判定以上を取っていたとしても不合格になることも少なくありません。そのため志望校の過去問を使って出題傾向に合わせた対策をすることが大切です」と医学部受験に向けてやるべき事を語った。さらに自分の言葉で説明できるように必要まで基本問題を解き、理解し定着させることが合格するために必要なことだと話した。また近年は、面接や小論文などの人間性を見る試験の配点が高くなったことでさらに合格することが難しくなったそうだ。

最後に「自分の将来像を思い描いてモチベーションを上げながら勉強に励んでほしい」と錦城生にメッセージを送った。(甘)

むらさき草

友人が先週ドイツニーランドに行ったという。コロナ感染への対策をしていたため、ワゴンが少なかったりアトラクションであまり声を出さないように呼びかけられていたりしたそうだ。友人は「そのような中でもキャストさんが『お化け3人分間隔を開けてください』とか工夫した呼びかけをしてくれたから楽しい1日を過ごせたよ」と話した。▼ドイツニーランドではコロナ感染拡大前のようにアトラクションを満足に体験できなかったとしても、キャストさんから伝播していく楽しいような雰囲気、足りない物を補っているのではないかと考えた▼雰囲気は音楽や建物、ポップコーンの匂いだけでなく、周りの人が楽しそうにしている気持ちからも左右される▼球大が中止になったことが発表されたが、その代わりに学年単位でのレクリエーションが開催されるという。ソーシャルディスタンスを取らなくてはならないため、雰囲気作りが難しくなるだろう。だからこそドイツニーランドのキャストさんのように感染対策もポジティブに考え、自分の気持ちを伝播させていくことで雰囲気を作っていくことと思った。今年だけの「特別な行事」を思い切り楽しみたい。(卵)